

人々が幸福に生きていける社会を実現する経済学に触れてみませんか？

よく「経済学はどのようなことに役立つのでしょうか？」という質問をされます。その質問が「お金もうけの役に立ちますか」という意味であれば、私は「違うよ」とお答えします。経済学を教える立場にある者なら、みな同じ返答をされると思います。

そもそも経済学とは何者なのでしょうか。最小限の費用で人々の豊かさを効率的に実現する方法を追求する学問だという意見もあるでしょうし、世をおさめ民を苦みから救う（経世（国）済民）ことが経済学の本質だと考える方もおられるでしょう。はたまた「οικονομία（オイコノミア）」をもちだして、よりよい状況をつくりだすための方法を模索する学問だという考え方もあります。これらは一見バラバラな主張に見えますが、一歩引いて俯瞰すれば、どの意見も人々の幸福の実現をその目的としていることが分かるでしょう。経済学の「目的」はあくまで人々が永続的に幸福に生きていける社会を実現することであり、お金もうけはその「手段」に過ぎないのです。私が専門としている「国際経済学」も、その目的は同じです。各国経済のつながりについて研究する国際経済学では、貿易自由化や企業の多国籍化、各国経済政策の波及効果など様々な問題について考えますが、その目的は常に「世界中の人々の幸福の実現」にあるのです。

しかし残念なことに、この一番大切なポイントが多くの人々に（経済学を学ぶ学生にすら）十分伝わっていない

ように思います。とくに高度化・専門分化された講義では、こうした大前提が語られないまま各領域の議論が展開されがちです。その点、本研究科経済学専攻には様々な分野のエキスパートが揃っており、幅広い研究領域をカバーした網羅的なカリキュラムも準備されています。また、学生数に比して多数の教育熱心な教員が在籍していることも大きな魅力です。面倒見の良い先生方のもとで経済学の本質から最先端の専門知識まで学ぶことのできる非常に恵まれた環境が、本専攻には整備されています。本学大学院は（その前身も含め）多数の優秀な経済学者を輩出してきた歴史と伝統を誇っています。このアカデミックな雰囲気にもまれながら、みなさんも本気で経済学を学んでみませんか。



経済学専攻担当教員・教授 西山博幸（専門分野：国際経済学）